

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

公民館まつり・地域づくり

豊浦地区文化・芸能祭の取組み

4.5

- 2 トピックス 第17回全国ボランティアフェスティバル にいがた 開催
- 3 視点 関屋モーニングサロン企画運営の中で学びつつあるもの
- 3 ひろば 車座トークの醍醐味
- 6 実践記録シリーズ 青年学級の歩みと課題
- 7 サークル交流 里山ときのか (小千谷市) / 健康美人を目指して (田上町)
- 7 素顔拝見 渡辺 和寿さん (胎内市) / 根津サヨ子さん (津南町)



「こうみんかんキッズフェスタ」
上越市高田地区公民館

今年で3回目になる夏休みの子ども向けイベントです。
地域の大人が指導者になり、さまざまな体験教室や遊びの
表紙解説 コーナーを実施。一日中子どもたちの元気な声が響き渡っ
ていました。

「ボランティア 深まるきずなに トキめいと」 第17回全国ボランティアフェスティバル にいがた 開催

去る9月20日(土)、21日(日)、朱鷺メッセを主会場に、延べ約三千名の参加者による第17回全国ボランティアフェスティバルが開催された。

新潟県では、平成16年の豪雨災害、中越大震災、平成19年の中越沖地震と度重なる大きな災害を経験しました。これらの災害の復旧・復興にあたって、県内外から多くのボランティアの方々駆けつけ、様々な活動に取り組みました。そのことが、被災者の皆様だけでなく、県民の励みにもなったことは、記憶に新しいところです。

このフェスティバル開催を機に、新潟県民一人ひとりがボランティアについての理解を深め、ボランティア活動のすそ野が広がることが期待されています。

第1日目は、「福祉・保健・

医療」「災害」「まちづくり・文化・環境」「子育て・教育」「国際交流・協力」の5分野で合計22分科会が、朱鷺メッセ、新潟ユニゾンプラザ、新潟市総合福祉会館の3会場に分かれて開催された。



第8分科会では、「災害救援ボランティアのこれまでとこれから」新潟の教訓を全国へ」をテーマに、これまで

の災害ボランティアの活動、支援(ボランティアセンター)

を振り返り、その足跡を新潟モデルとして検証し、今後のボランティアによる災害支援のあり方について討論が交わされた。第8分科会の内容は、次の5項目にまとめられた。

- ▽災害対応の基本は「地域」。特に普段からの災害に強いまちづくりが大切である。
- ▽災害ボランティアは作業も大切だが、寄り添い、ゆつくり丁寧な気持ちを受け止める「傾聴」が被災者本位の原点である。
- ▽災害ボランティアセンターは単なる需給調整機関ではなく、復興に向けた人と人との「協働の場」である。
- ▽普段から地域の社会資源をつなげよう。地域資源は、人と人との関係性が大切である。

▽いずれにしても、もっと仲間を増やしていこう。普段からの交流を深めていこう。

各会場とも、多くの参加者で満員状態の中、活発な意見交換がなされた。



鷺メッセ1階「ウエーブマーケットA」を会場に、ステージでの活動紹介やボランティア団体・NPO団体等によるバザー形式市場、手作り品の実演や販売等が行われた。また、ボランティアの疑似体験ひろば、活動紹介ブースなどが設定され、多くの子どもたちの姿も見られ、賑わいを見せていた。

今回のボランティアフェスティバルの「大会総括」を読むと、各分野で共通するキーワードがいくつかみられた。「人と人とのつながり・かわり」「人間関係づくり」「地域(の仕組み)づくり」「協働」「絆」「ネットワーク」「交流」「信頼(安心)」等々。

ボランティア活動のみならず、様々な活動を支えるのは人。その人を支えるのもまた人ということでしょうか。人と人とのかわりを深め、広げることが物事の基本になるのかなと感じさせられた二日間であった。

(相澤 記)

第2日目は、朱鷺メッセを会場に、式典(主催者あいさつ、来賓あいさつ、ボランティア功労者厚生労働大臣表彰等)。「中越・中越沖地震の経験〜感謝・交流・絆」をテーマにしてのリレートーク。大会総括。引き継ぎ・閉会等の行事が行われた。

また、両日にわたって、朱

視 点

関屋モーニングサロン 企画運営の中で 学びつつあるもの

新潟市関屋地区公民館
関屋モーニングサロン企画委員会委員長 宮崎 謙次



関屋モーニングサロンは、今年で五年目を迎えました。平成十六年九月、有志を募り十人の賛同者を得て、企画委員会を立ち上げ、公民館主催事業の一環ではありますが、「関屋モーニングサロン」をスタートさせました。素人集団でしたが、公民館長のアドバイスを受けながら、すべて自主運営、自主企画で、百名前後の聴講生が、明るく親しみ易い会場で、「毎日の実生活に生かせるもの」「地域に根ざしたもの」又「国内外の

ニューズ、時事問題の解説」「生活の中に潤い、癒しをあたえてくれる話題」等々、楽しく、新しい発見、感動を受けるような講座を、七回のシリーズに盛り込んだ「生活活性化ワイド講座」を目指しております。多様化、情報化社会の中で、委員一人一人も自己啓発に努め、多様な地域住民の皆さんの学習要求に応えていける活動にしていかなければならないと思っております。

H O T N E W S

掲 示 板

平成20年度
下越地区公民館関係役員等研修会開催
テーマ「まなぶ」だけじゃない！
公民館の目的と機能について
～住民の自治能力向上支援のために～

「果樹の里 海辺の町」聖籠町を会場に、下越地区管内から87名の参加を得て、盛会裏に開催された。

◇期 日 平成20年9月26日(金)
◇会 場 聖籠町町民会館他
◇参加者 公民館役職員、公民館運営審議会委員、社会教育・生涯学習関係者等87名

◇日 程

9:30	10:10	10:40	12:00	13:00	13:40	14:00	16:00	16:30	17:00	19:00
受付	開会	分科会	昼食	分科会	移動 休憩	講演会	閉会	移動	情報交換会	

◇分科会 17～23人の4グループに分かれ分科会を行った。司会者を中心に、テーマに沿って各公民館の取組について、成功事例や課題等について発表、議論が行われた。

◇記念講演
演題 「地域づくり・住民自治と社会教育の役割を考える」
講師 北海道教育大学釧路校 教授 玉井康之 様

ひろば

車座トークの醍醐味

新潟市豊栄地区公民館運営審議会議長 丸田 秋男

わたしは、今、住民自らが主体となって地域の福祉問題に取り組む計画づくりに携わっています。その計画づくりの過程において「車座トーク」の醍醐味を体験しました。

住民が、町内や集落の集会所等が集まり、「車座」になって、身近な地域の生活課題とその解決方法等について自由に意見を述べるのです。

子育て、介護問題、健康づくり、環境づくり、交通問題等の課題と具体的取組に関して多くの意見が出されました。

わたしは、社会福祉に従事する立場から、一貫して「公民館」の今日的役割や意義の大きさを主張しています。

それは、公民館は、公民館活動の主体である住民自らが、地域の中にある生活課題を取り上げ、参加型学習等を通して総合的な解決方法を検討し、住民と地域に散在する社会資源を繋ぐことを支援する地域拠点であると捉えているからです。

「車座トーク」を川岸の向こうの話としてではなく、公民館の原点として受け止め、「事業志向」(講座重視)から「地域志向」(課題重視)への転換を積極的に進めていきたいと考えています。

地域づくり

能祭の取組み～

参加者に体験してもらいその場で簡単な作品を作ります。

2 芸能祭

公民館で活動する団体を中心に、地区の小学校、中学校の出演を得て実施します。

○主な出演種目

大正琴、民踊、民謡、詩吟、コーラス、ダンス、マジック、よさこい、吹奏楽など

○お楽しみ抽選会

芸能祭終了後、入場者に感謝の意味を込めて抽選会を開催します。



3 チャリティイベント

○チャリティ販売

販売コーナーを設けて団体の作品を販売します。

○豊浦地区ボランティア連絡協議会の不用品等の物品販売

○豊浦地区食育ボランティアグループの軽食バザー

○新品タオルの福祉施設寄付

※いずれも売上金の一部を地区の福祉施設に寄付します。

成果と課題

成果として、文化・芸能祭開催にあたり、実行委員会を数回開催した中で、例えば入場者数の減

少対策については、地区の小学校や中学校吹奏楽部への出演依頼や芸能祭終了後に「お楽しみ抽選会」を実施して入場者を増やす取組み、団体作品の体験コーナーを行う等、工夫やアイデアが実施されました。その結果新たな団体の参加や入場者数の増加などの成果がでてきています。

さらに、地区にある福祉施設との連携協力を図ることにより、地区の4施設から入所者の作品を出品してもらうとともに、地区ボランティア団体の協力を得て各種チャリティイベントを行い、売上金の一部を地区の福祉施設に寄付し感謝されています。

課題として、新発田市との合併で参加団体が増えたことにより、限られた会場での展示作品の調整、芸能部門では出演時間の割り振りなどに苦勞する場面がでております。また新たな団体の参加もありますが、地区の郷土芸能の神楽や盆踊りが参加できないのが残念で、是非復活を期待したいものです。

実行委員会が「昨年の反省を踏まえて、本年の実施計画を立案決定、そして実施する」機能を発揮することで、参加団体と公民館相互の意思の疎通が図られており、事業を進めていく上で大切な役割を担っています。

おわりに

市町村合併により広域化が進行しており、地域コミュニティの希薄化が危惧されていますが、公民館の原点に立ち戻り、「学びあい、集いあう」場として、そして地域コミュニティ復活の場として、公民館の役割がいま求められる時ではないかと思えます。

そして、地区の文化振興に果たす文化・芸能祭など様々な取組みをすることにより、活力ある地域づくりが形成されるものと思っています。

特集

公民館まつり・

～豊浦地区文化・芸

新発田市豊浦地区公民館
副参事 清治 隆

はじめに

新発田市は越後平野の北部に位置し、県都新潟市に隣接する新潟県北部の中核都市です。平成15年7月に豊浦町と、そして17年4月に紫雲寺町、加治川村と合併して、人口10万6千人の県内5番目の都市になりました。江戸時代には10万石の城下町として栄え、現在も国の重要文化財となっている新発田城や足軽長屋など文化遺産が随所にあります。

新発田市豊浦地区公民館は、県内屈指の観光地「美人になれる温泉」として有名な月岡温泉と豪農の館「市島邸」、そして広々とした水田を中心にした緑豊かな、人口約1万人の旧豊浦町が活動エリアです。

文化・芸能祭について

「豊浦地区文化・芸能祭」は本年度で34回を迎える長い歴史があり、昭和50年に第1回が開催されています。当時は中学校の統合により旧中浦中学校に豊浦町公民館が入居することになり、公民館関係者が待ち望んだ独立公民館が誕生することになりました。文化芸能団体の活動の場ができたこと



により活動の輪が広がり、さらに青年団や婦人会が合同で演劇を計画するなど「文化・芸能祭」の気運が高まり、記念すべき第1回の開催につながりました。当時の青年団活動から結成したダンスクラブは、今も毎年参加出演しています。

このような歴史の中、毎年豊浦地区文化・芸能祭が開催され、近年は11月の第2土曜日、日曜日が発表の場として定着してきたところです。

しかし、長年の開催により団体の固定化、マンネリ化の傾向や入場者数の減少などのマイナス面がでてきました。このような中、公民館主導でなく公民館で活動している団体から自ら何とかしようという気運が盛り上がり、企画・運営する実行委員会（展示部門、芸能部門）を結成して運営にあたることになりました。

概要

1 展示会

公民館で活動する団体の作品展示を中心にして、一般募集作品、そして地区の保育園、小学校、中学校、福祉施設の作品を展示します。

○主な展示作品

俳句、水墨画、日本画、切り絵、書道、手芸、籐細工、フラワーアレンジメント、陶芸、写真、菊花、生け花など

○体験コーナー

(籐細工、フラワーアレンジメント)



実践記録 127 シリーズ

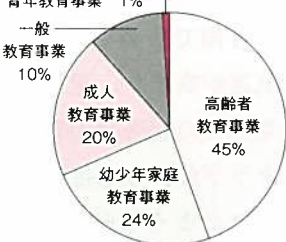
青年学級の歩みと課題

十日町市中央公民館長 廣田 公男

1 はじめに

十日町市(平成20年4月住基人口6万2千人)では、公民館が主催する講座等に参加する市民の数は、年間延べ約4万人になっている。内訳をみると、高齢者が45%を占め、青年層はわずか1%にすぎない。青年層のニーズにどうこたえるのが、これからの公民館運営のキーポイントの一つである。現在県内で唯一残っている十日町市の青年学級の歩みを通して、これからの公民館が青年層にどうアプローチしていったらよいか、課題提起をしてみたい。

(図表1) 公民館事業参加者の内訳 (H19)

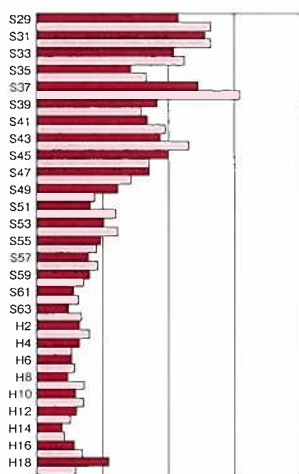


2 青年学級の歩み

十日町市の青年学級は、次のグラフのとおり時代の要請とともに発展し、また時代の変化とともに衰退していった。

青年学級は、昭和23年、戦後の混乱期から始まったが、最初は青年講座といい、勤労青年の補習授業的な要素が強く、講座も英語、数学、国語といったようなものだった。

(図表2) 十日町青年学級及び勤労青年ホームの在籍者の推移



昭和28年に青年学級振興法の施行とともに青年講座から青年学級へと名称変更。

その後コース別学習も始まり、昭和30年代は、学級生がピークに達している。当時十日町では織物業が活況を呈しており、若者が町なかにあふれていたといわれている。

昭和40年以降は、時代が急成長を遂げた時代でもある。しかし、社会の成熟とともに人々の価値観も多様化していった。講座の内容もより現代化し、学級生の確保のため青年のニーズにこたえようといういろいろ苦労したが、学級生はだんだん減っていった。

昭和63年から平成の初めにかけて、バブルがはじけ、不況の時代が始まったが、また、各地で地域おこしが盛んになった時代でもある。青年学級も自治会活動が活発化して、静岡、愛知、兵庫県の青年学級と交流をもつなど一時活性化したが、学級生の減少は止まることはなかった。

平成16年の中越大震災の爪痕は大きく、公民館と並行に活動していた勤労青少年ホームが地震による被害を受け、復旧不可能となり、ついに閉鎖された。それに伴い、ホームと青年学級が合併し、現在に至っている。学級生も2つが合併した当時は一時的に増えたが、現在はまた少なくなっている。

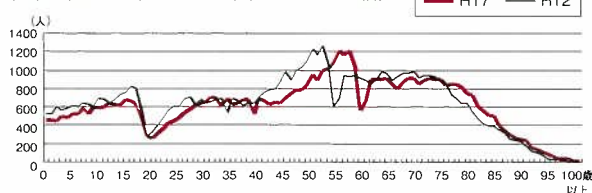
3 問題点

先の図表1のとおり、現在の公民館を利用している年齢層は、半数近くが高齢者であり、その方々はまた、

昭和30年代の青年学級全盛期にまさに青年だった年代でもある。生涯学習は幼少年期からともいわれるが、若い層を今から公民館活動につなぎとめておかないと、将来、公民館の利用者数は激減し、やがて公民館の存在意義が問われる時代がやってくるのではないかと危惧しているところである。

ここで、平成12年と17年の国勢調査結果を比較してみると、子ども、青年層、中堅層が減り、高齢者は増えている。また、団塊の世代の大量退職も間近に迫ってきている。

(図表3) 十日町市の人口分布 (H17-H12比較)



特に近年、出生者数が急激に減少していることが問題である。25歳から40歳までの人口も減っているのが要因であるが、それにもまして出生者数が大幅に減少しているのが気になる。特殊出生率の減少や未婚者の増加などが影響しているものと思われるが、公民館に青年が集まらなくなったことと多少なりとも因果関係はないのだろうか。

4 課題

そこで、青年教育をどう展開していったらよいかということであるが、社会はますます閉そく感を増し、就業も不安定で、社会における一個人の役割も分業化、細分化され、仕事に生きがいを見出すことが難しくなっている。いわゆる青年の居場所が少なくなっているところである。社会の成熟とともに、個人の欲求は生産活動や仲間づくりよりも自己実現欲求へと移り、それにつれて人々も単独行動を好むようになってきているのかもしれない。



青級ホームフェスティバル (やきものコース)

しかしながら、青年教育に関しては、このような阻害要因だけでなく、促進要因、プラスの面もあるのではなからうか。たとえば、一部の若者の中に、新しい価値観が芽生えていることも感じられる。阪神淡路大震災、中越大震災などを契機としたボランティア活動への参加、環境問題への関心度の高さ、NPO活動への参加、都会における田舎暮らしブームなどであるが、今までの効率優先、経済至上主義の時代にはなかった新しい価値観が育ってきつつある。また、行政主導のまちづくりから市民が主体のまちづくりへと方向転換する動きの中で、地域の中に青年の居場所も必要とされるのではなからうか。地域づくりと一体となった社会教育活動が必要である。

必ずしも青年学級にこだわるわけではありませんが、公民館が地域と一緒にあって青年活動のためにどんな役割を担ったらよいか、今まさに正念場ではないかと思っているところである。

里山のきのこ

小千谷きのこ同好会

緑の地球は多くの生物で支えあい成り立っていますが、菌類も動植物を分解して土に戻す重要な働きをしております。

秋になるときのこ採りの時季、茸による中毒が発生します。私どものグループは、正しい茸の知識「毒キノコ・食べられる」を知ってもらいために講習会等を行っております。「夏暑く秋雨が多いと茸も豊作」といわれています。しかし、最近の異常気象で菌類の世界も偏った発生が見られ、世界でおおよそ5000



種以上あるといわれる茸にも、今まで発生を見ない「猛毒茸」が身近な里山にも異常発生がみられることも十分考えられます。大切な自然環境を守り、秋の恵み、天然ものの「香り・食味・触感」美味しい茸を食しましょう。

小千谷市勤労青少年ホーム館長 野沢 弘明 記



健康美人を目指して

田上町ヨーガサークル

私共ヨーガサークルは、毎週木曜夜7時半から町公民館で活動しております。昨年、公民館主催「大人のためのゼミナール」終了後、「継続した



いよね。ずっと健康でいたいよね。」と有志が集まり、決意を新たにサークルを結成しました。メンバーは登録者が50人程いますが、毎回の参加は、ざっと平均20人くらいです。

夜のサークルですが、夕飯時分なので、家庭や仕事で忙しかつたりすると、なかなか出てこれなかつたりします。それでも無理せず、「来れる時に来てやろうよ!」という気楽なサークルです。続けたくても、家で一人じゃ、あきらめそうになります。みんなが待っていてくれる場があると心強いものです。

ヨーガサークル会計係

小柳 加奈子 記

和寿さんは今年の4月に健康福祉課の保健福祉施設から公民館に配属になった社会教育係のルーキーです。役所職員になって5年、初めての異動でしたので最初は緊張している様子でしたが、公民館と同様に前の部署も大勢の方々と接する所でしたのですぐに慣れて今では公民館の看板息子です。

大のサッカー好きで、職員のサッカー部ではエース

胎内市中央公民館

主事 渡辺 和寿さん



素顔 拝見

多くの方から津南町の素顔拝見は大変おもしろいとの声をたくさんいただいたような気がするので、津南町は今も明るく、楽しくいきたいと思えます。

今月はみなさんに、笑顔がひまわりのように明るい「根津サヨ子さん」を紹介します!!

サヨ子さんの公民館での担当は津南に住む外国の方を対象にした日本語教室「ことばのキャッチボール」です。持ち前の明るさで、日本に来たばかりの外国の方相手に、ちょっとてんぱりながらゆっくり丁寧に「日本語」で対応します(^^)横で聞きながら本当に会話が成り立っているのかたまに不安になるときもありますが、大切なのはHeart To Heart!! 公民館事業で行っている「芸能フェ



津南町教育委員会

社会教育指導員 根津サヨ子さん

スティابل」では運営だけでは物足りず、毎年「私たちも“こうみんかんズ”で出ようよ!!!」と声をかけられます。まわりは声をかけられた瞬間に無言になります。しかし来年あたりには本当に出演して主催者が大トトリをかざるという自己満足で終わる前代未聞のフェスティバルになってしまうのではないかと考えています(^^)

芸能フェスティバル出演に関しては「なんもいえねえ(北島康介風)」ですが、これからも津南町を、津南町公民館を盛り上げるために一緒にがんばっていききたいものです。

みなさんもこれからの季節、秋山郷の紅葉とサヨ子さんの笑顔を見に津南町に遊びにきてください☆

(津南町教育委員会生涯学習班 主事 北村 要人 記)

ストライカーで活躍しています。また欧州サッカーについてはカルト的な知識があり、読むのも難しい選手名はもちろん、過去のゲーム内容をすぐに話せることなどは、とても驚かされます。夜中に放送されているゲームを録画して結果を知ることなく後で見ているため、次の日結果については公民館では禁句です。(笑)

(胎内市中央公民館 主任 神田 林弥 記)

event information

平成20年度

中越地区公民館長・主事・公連審等研修会開催要項(概要)

- 趣旨 (省略)
- 主題 「生涯学習社会における公民館の今日的役割を探る」
- 主催 中越地区公民館連絡協議会
- 共催 新潟県公民館連合会
- 主管 三条市中央公民館 見附市中央公民館
- 期日 平成20年11月18日 (火)
- 会場 見附市中央公民館
- 日程

12:30 13:00 13:20 14:50 15:00 16:00 16:10

受付	開会式	記念講演	休憩	事例発表	閉会
----	-----	------	----	------	----

〈開会式〉

開会のあいさつ 中越地区公民館連絡協議会会長 鈴木 正行
 来賓祝辞 中越教育事務所社会教育課長 池田 正義 様
 見附市教育委員会教育長 神林 晃正 様

〈記念講演〉

演題 『地域をつなぐ公民館に行こう！』
 講師 高千穂大学人間科学部准教授 松田 道雄 様
 「だがしや楽校」発案者、着想家(コンセプター)
 1961年山形市生まれ。山形大学大学院教育学研究科修了。山形県内の中学校教諭、東北芸術工科大学子ども芸術教育研究センター准教授を経て、08年度に高千穂大学人間科学部准教授に就任。
 現在の研究内容は、現在の大人社会の発想にとらわれない視点での思考、企画、ものづくり、しくみづくり、共同活動、地域活性を「子どものリ・デザイン」「あそびじねす・まなびじねす」「生涯学習のお互い様関係のものづくり」などとして実践を創出。

〈事例発表〉

「地域とともに歩む公民館」
 三条市大崎公民館 嘱託員 大竹 智子 様
 「講座を創る、まちを創る」
 見附市生涯学習プランナー実生の会 会長 大川戸一紘 様

〈閉会式〉

開会のあいさつ 主管公民館長代表 見附市中央公民館長 早川洋介

- 参加料 1人 200円
- 参加申し込み・問い合わせ
 11月7日(金)までに下記へ市町村単位で、メールで申し込み。
 〒954-0053 見附市本町2丁目5番9号 見附市中央公民館
 電話 0258-62-1058 FAX 0258-62-3199
 E-mail: tyuukou@city.mitsuke.niigata.jp

恵贈資料紹介

十日町婦人学級OG

「十日町婦人学級OG」の方が中心になって発行している「ゆずり葉」255号(9月号)を恵贈いただきました。現在では、配布部数が2900部にもなるということですが、県公連にも毎月お送りいただいています。毎月、第1ページには「いつまでも心に残る思い出のうた」と題して、懐かしい歌の歌詞ときれいなイラストが掲載されています。日常の生活の中での随想や俳

句等が、いつも丁寧で読みやすい手書きの文字で書かれており、毎月拝読することを楽しみにしております。8月15日発行の254号は「戦争特集」でした。十日町在住の方だけでなく、県内、県外に住むの方など、多くの方からの寄稿がまとめられ、戦争の記録・記憶を語り継ぐ特集でした。疎開の思い出、戦死者への追悼、当時の自分の生活の様子などが綴られた内容でした。

どんな困難にもめげず、それぞれの立場で終戦後の大変な状況から力強く復興を成し遂げてきた、強い意志と努力の経過が



記されていきました。そして、二度と戦争はしてはならないという決意も感じられました。

あ 9月25日(木)、佐渡市新穂正明寺で「トキ放鳥式」が行われ、飼育されていたうちの10羽が自然に放たれました。いつか群れをなして大空を飛びまわるトキの姿を見ることができる日が来ることを強く願っています。
と いよいよ研修シーズンに入り、中・下公連の研修会も、盛会のうち有意義な大会になりました。
が
き
 (相澤 記)

100年先の日本のために

水を育み国土を守る森林は「緑の社会資本」であり、その恩恵を後世の人々が享受できるよう、長期的視点に立った森林づくりを推進しています。

新潟県市町村林政振興協議会
 会長(津南町長) 小林 三喜男

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内
 TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609